

くらしスタイル調査報告書
～「幸せ家族」の鍵を握る高感度男性～

2009年11月12日

花王株式会社生活者研究センター
東京電力株式会社くらしのラボ
パナソニック株式会社くらし研究所

目次 および 主要結果一覧

本調査のねらい (p4)

「幸せ家族」の鍵を握る高感度男性(サマリー) (p6)

- 「食に対する意識」「家族に対する考え方」「環境意識」のいずれの意識も高い男性を『高感度男性』
- 高感度男性は、「自分」「夫」「父」の時間をバランスよく確保し、いずれの役割もマルチにこなしている
- 高感度男性は、積極的に身の丈にあった家事をさりげなく行い、妻や家族を喜ばせている「幸せ家族」の鍵
- 高感度男性の家庭行動の共通ポイントは、①会話の機会が多い②妻の状況に合わせて家事をサポート
- 高感度男性の妻に共通していることは、夫を見守りながら、温かい気持ちで接している

1. 高感度男性とは？ (p7)

- 幸せ度に影響すると考えられる「食」「家族」「環境」に関する49の設問について因子分析を行い、10個の因子を抽出。3つの意識がいずれも高い男性を「高感度男性」と呼ぶこととした。

1-1. 家庭の幸せ度が高い (p8)

- 「家庭内は上手くいっている」と感じている人が約8割
- 子供の有無は関係なし。20代が多く、40代は少ない

1-2. 仕事にも家族にも時間をかける (p9)

- 仕事の時間も長いが、家族と一緒に過ごす時間も長く、休日は長時間家族と過ごしている

1-3. 食事もイベントも家族と一緒に (p10)

- 休日を家族と過ごし、家族バラバラで過ごすことは多くない
- 朝食・夕食とも家族そろって食べる割合が高く、特に休日の夕食は9割を占める

1-4. 家事に積極的 (p11)

- 実施している家事の項目数が多い
- 実施率が高い家事は、浴室の掃除や配膳、食器洗い、ごみ出し、下げ膳、コンロまわりの掃除など
- 「家庭内は上手くいっている」と感じている妻の夫は、ごみ出し、大掃除、下げ膳、エアコンのフィルター掃除を実施

1-5. 妻は最良のパートナー (p12)

- 妻は、「恋人」や「同士・相棒」であり、「最良のパートナー」

2. 高感度男性のいる家族のくらし(ライフステージ別)

2-1. 新婚・子育てファミリー(20~30代) (p13)

- 日々の生活や家事にちょっとした変化を取り入れて楽しむ、協働型コミュニケーション
何でも話して一緒に過ごす心がけを忘れない、ママで密なつながりが幸せのカギ

2-2. 小学生のいるファミリー(30~40代) (p14)

- 日々の生活や家事にさりげなく寄り添い、家族の和を保つ調和型コミュニケーション
時にサプライズや家族イベントで結束力を高めることも忘れない、メリハリの利いたつながりが幸せのカギ

2-3. 中学生のいるファミリー(40~50代) (p15)

- 日々の生活や家事は、お互いを信じて任せる信頼型コミュニケーション
互いに踏み込み過ぎない自由さも残しつつ、変化を受け入れ今後の関係を作り出すつながりが幸せのカギ

2-4. 夫婦ふたり(40~60代) (p16)

- 日々の生活や家事は、お互いを尊重、つかず離れず協力しあう連携型コミュニケーション
気遣うことを忘れない、一緒に過ごす同士のような、ツボをおさえつつつながりが幸せのカギ

<参考>食・コミュニケーション・家事行動

1. 普段の生活と料理や食事に関する意識 (p17)

- 約7割が「家庭内は上手くいってる」と答えると同時に、「老後の事が不安でならない」も半数以上
- 「自宅で食事したい」「自宅で調理したものを食べたい」は約7割と、巣ごもり傾向が明らかに

2. 家族とのコミュニケーション (p18)

- 「家族そろって食事をとる」「家族で会話する」はともに、平日の朝食が一番少なく、休日の夕食が一番多い
- 話題は「社会的な出来事」「TVのこと」「会社の出来事」「子供の出来事」が多い

3. 家庭生活の基本はコミュニケーション (p19)

- 「家庭内は上手くいっている」と感じている家庭ほど、家族と過ごす時間をとるよう心がけ、家族揃って食卓を囲みたい

4. 家事分担と環境意識 (p20)

- 「家庭内は上手くいっている」と感じている男性ほど、家事を共同作業したい、分担したい
- 男女とも「家庭内が上手くいっている」家庭ほど、環境のための取り組みにも前向き

5. 男女の家事行動と意識 (p21)

- パートナーの家事に望むことは、男性8割は「満足している」、女性8割は「ちょっとでもいいので手伝って欲しい」
- 夫の家事実施率が半数を超えているのは「ごみ出し」のみ

調査内容 (p22)

本調査のねらい

●背景

女性の就業率増、それに伴う共働き世帯の増加、晩婚化、単身世帯の増加、平均世帯人員の減少など家族の形が大きく変化している。

内閣府調査(図1参照)によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「反対」の人の割合が「賛成」を初めて上回ったのが平成19年。男性では、まだ、「賛成」の人が約半数を占めているものの、固定化していた役割分担の変化がみえる。

また、平成19年度の国民生活白書によると、「一番大切なもの」に「家族」と答える人が年々多くなっている(図2参照)。最近では、経済不況の影響もあって、「巣籠もり消費」、「肉食化」などのキーワードで語られるように、人々の気持ちが「家」に向かっているようである。

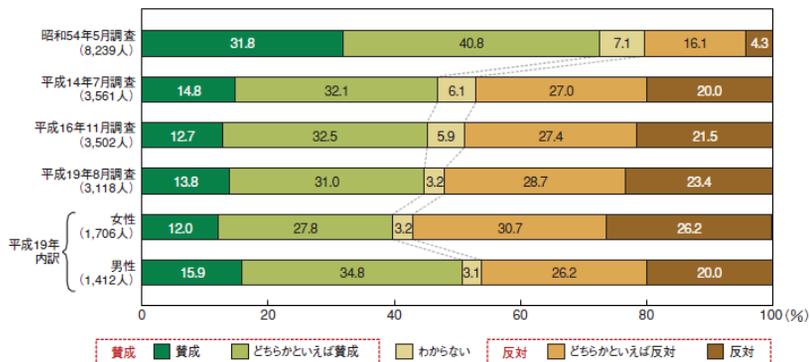
花王(株)、東京電力(株)、パナソニック(株)は、これまでも独自に生活者調査を行ってきたが、大きく変わりつつある「家庭・家族のあり方」を3社の視点を取り入れて共同で調査設計・分析を行い、その実を捉えることをねらいとした。今回得られた知見をもとに、今後のよりよい商品・サービスの開発やくらし方提案などの情報提供につなげたい。

●「幸せ家族」の要因をさぐる

家族の幸せ感に与える要因を、家族が共に過ごす「場」として重要な「食に対する意識」、「家族に対する考え方」、自分や家と社会との関わり方につながる「環境意識」の3つの柱を立て、家族での食事の頻度や重視度、平日・休日の過ごし方、コミュニケーションの取り方、家事の分担の仕方、省エネへの取り組みなどの観点から明らかにしたい。

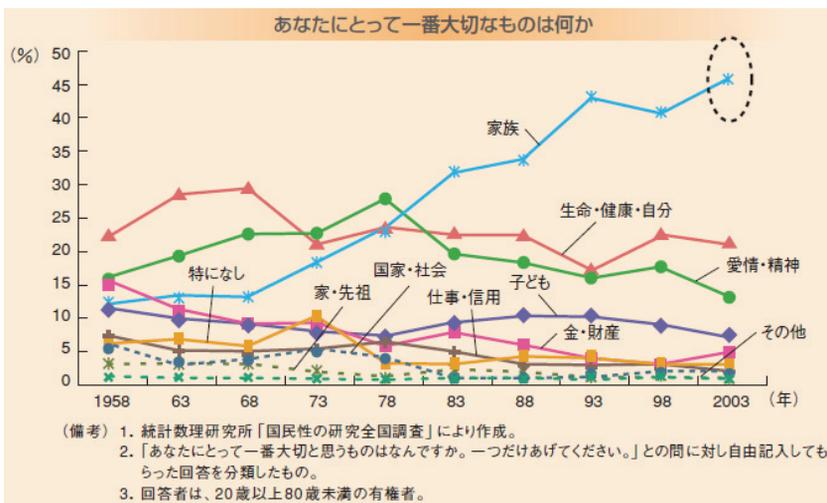
また、定量調査に加えて定性調査を行うことにより、よりリアルに家族の有り様の「変化の芽」を捉えたい。

<図1> 固定的性別役割分担意識<経年比較>
(夫は外で働き、妻は家庭を守るべき)



出典:「内閣府男女共同参画に関する世論調査」平成19年8月

<図2>



出典:「国民生活白書」平成19年8月

「幸せ家族」の鍵を握る高感性男性(サマリー)

■「高感性男性」(⇒ p7~12)

各社が独自に行なってきた調査や予備調査から、夫が家庭での食卓作りに関わっているほど家庭円満な傾向がみられた。そこで、男性の「食に対する意識」、「家族に対する考え方」、および自分や家と社会との関わり方につながる「環境意識」が、その家族の幸せ感に影響を及ぼしているのではないかと仮説をたて、この3つの意識の高さで男性のタイプ分類を試みた。

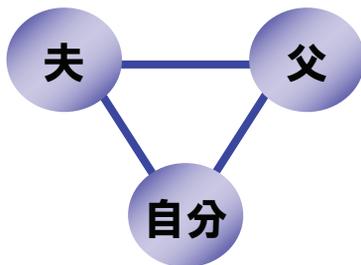
その結果いずれの意識も高い男性が存在しており、この「高感性男性」の家庭では、男性本人も家族も家庭における満足度が高く、「幸せ」を実感していた。

「高感性男性」と分類される人の特徴をさぐると

- ・仕事の時間は長いものの、家族と過ごす時間を大事にする。
- ・特に「食卓」をコミュニケーションの場として大切にしている。
- ・勉強や趣味といった自分の時間も上手に確保するなど生活バランスがとれている。
- ・多くの家事項目の実施率が高く、妻や家族を喜ばせている。
- ・8割が「家庭内は上手くいっている」と感じている。

このように、自分(仕事・趣味)として、夫として、また、父としてバランスのとれた高感性男性の存在が、「幸せ家族」の鍵となっている。仕事のみではなく、家庭でのくらしも自然体でこなし、いずれの役割もマルチにこなす高感性男性の姿が浮かび上がった。

【役割をマルチにこなす男性】



【高感性男性の条件】

- ① 仕事も家事も自然にこなす
- ② 妻と良いコミュニケーションがとれている
- ③ 会話のはずむ食卓の場を演出している

■高感性男性の家事(⇒ p11)

高感性男性は、日々の簡単な家事(ごみ出し・下げ膳など)、または、不定期で面倒な家事(大掃除・エアコンのフィルター掃除など)を担っていた。

一方、そういった家事をする夫を持つ妻の幸せ度は高い傾向が見られた。このことから、高感性男性は「妻のニーズをうまく聞き出し、ツボを押さえたつきあい方をしている」のではないかと考えられる。

また、こういった高感性男性は、若い世代に多いものの、ライフステージに大きな偏りがあるわけではなく、様々なステージ・家族構成に分布が見られた。

■高感性男性の家庭内行動ポイント(定性調査) (⇒ p13~16)

そこで、高感性男性ファミリーのくらしぶりを夫婦それぞれの目線で詳細に把握するために、4つのライフステージ(20~30代の新婚・長子未就学児のファミリー、30~40代の小学生の子育てファミリー、40~50代の中学生の子育てファミリー、40~60代の夫婦のみ・子供独立ファミリー)の高感性男性を、首都圏の一般的な世帯から抽出、夫婦それぞれへのヒアリングによる家庭訪問調査を実施し、そのくらしぶりを描くことを試みた。

その結果から、高感性男性が実際にしている家庭行動のポイント共通点として、大きく次の2つがあげられた。

①会話の機会が多い:食卓をコミュニケーションの場として、気楽に会話をしている。話しやすい雰囲気になるよう気を配り、話題は他愛も無いことから何でも。また、日々の感謝の気持ちなど、分かり合えていると思っていることでも、敢えて「言葉」に出してきちんと表現している。

②家事をサポートする気持ち:妻が専業主婦でも分業(夫:稼ぐ人、妻:家事する人)だからと家事をまかせっきりにすることなく、妻の様子から必要とされるサポートを察知して、忙しくて手が回らないところ、妻の苦手な家事をさりげなく手伝うことを意識している。

■高感性男性を見守る妻 (⇒ p13~16)

高感性男性の妻からは、夫を見守りながら、温かい気持ちで夫に接している様子が共通してうかがえた。

- ・子供と夫との会話が増えるように、その日の出来事や共通の話題を振るなど子供と夫の会話をつなぐ。
- ・夫の得意料理は夫にまかせて、あまり口出しをしない。
- ・家事を手伝ってもらったら、多少下手でも文句を言わず「ありがとう」「助かった」の一言。その後「こうすればもっとおいしくなりそうだね」といった具体的にアドバイス。

高感性男性の家庭は、会話を心がけることで、夫婦互いの状況を把握し、助け合って生活していこうという意識が強く感じられた。また、会話することで、互いに作りたい家庭の姿が自然に共有され、その実現にむけて着実に進んでいる様子がうかがえた。

これらの結果を、3社それぞれの商品・サービス開発や生活者研究に活用していきたい。

1. 高感度男性とは？

男性の意識に着目し、家庭の幸せ度に影響していると考えられる「食」「家族」「環境」の意識に関する49の設問について、因子分析を行い10個の因子を抽出した。これらの因子から、いずれの意識も高い高感度層が存在することが分かり、高感度男性と呼ぶこととした。

抽出された因子と設問項目例

【食】意識

作るの好き因子

- ・料理を作るのが得意である
- ・料理が好きである

食べるの好き因子

- ・旬のものを食べたい
- ・おいしいものを食べたい

一家団らん因子

- ・家族そろって食卓を囲みたい
- ・食事の時間に、家族でコミュニケーションをとりたい

自宅で食事因子

- ・自宅で調理したものを食べたい
- ・なるべく自宅で食事したい

家族で分担因子

- ・家族と一緒に役割分担して、調理をしたい
- ・男性も積極的に調理に参加した方がよいと思う

喜ばれたい因子

- ・家族が料理を完食すると料理への意欲が増す
- ・料理を褒められると、やる気が出る

【家族】意識

家族優先因子

- ・どんなに忙しくても、家族と一緒に過ごす時間を取るように心がけている
- ・家族とのコミュニケーションは良好である

【環境】意識

環境重視エコ因子

- ・使うのに多少手間がかかっても、環境に良い商品を選びたい
- ・環境のためには、多少の出費はやむをえない

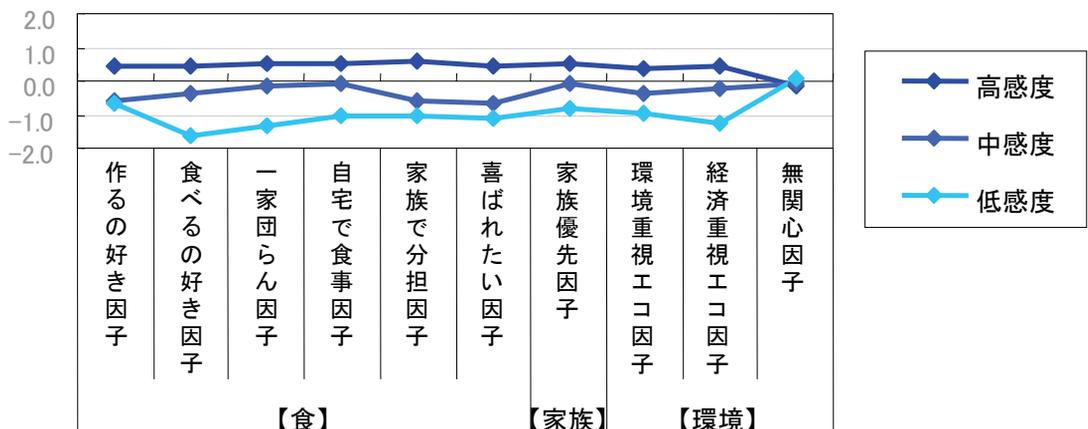
経済重視エコ因子

- ・値段が変わらなければ、環境に良い商品を選びたい
- ・機能や品質が同等であれば、環境に良い商品を選びたい

無関心因子

- ・環境問題(エコ)の情報は難しくて理解できない
- ・環境を良くするために何をしたらよいか分からない

男性のタイプ分け



1-1. 家庭の幸せ度が高い

高感性男性は、20代の割合が高く、「家庭内は上手くいっている」と感じている割合が高い(「まったくそうだ」「ややそうだ」をふくめて8割以上)。低感性層は40代、50代の割合が高い。子供の有無には大きな違いはみられない。

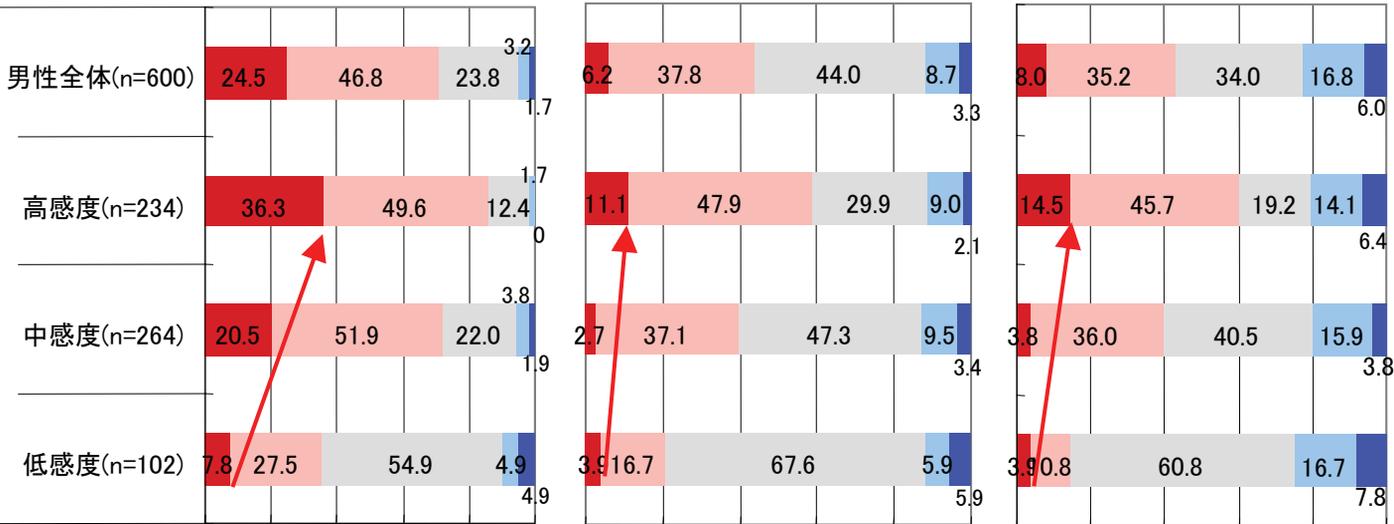
幸せ感

家庭内は上手くいっている

生活は充実している

生活に満足している

0% 20% 40% 60% 80% 100%



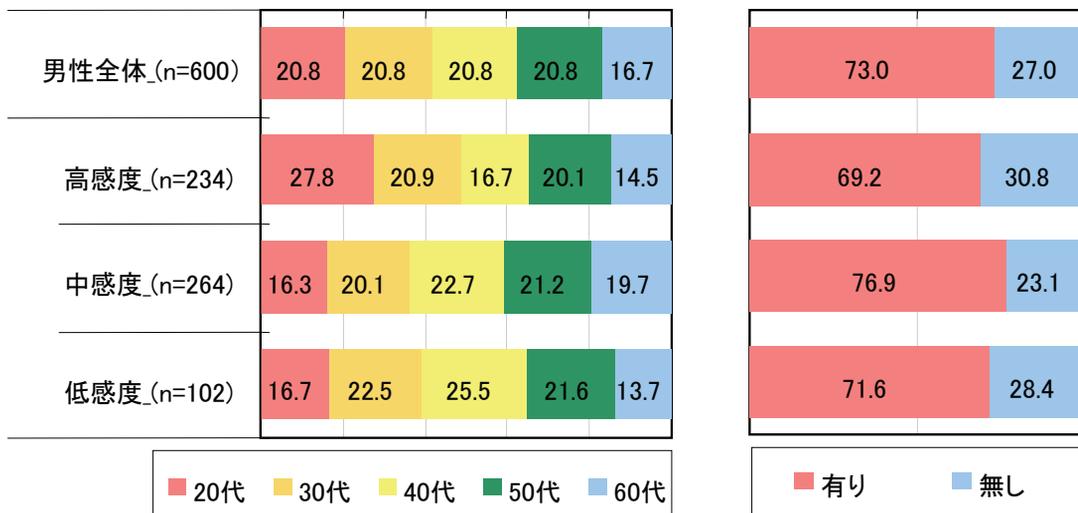
■ まったくそうだ ■ ややそうだ ■ どちらともいえない ■ やや違う ■ まったく違う

属性

年代

同居している子供の有無

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代

■ 有り ■ 無し

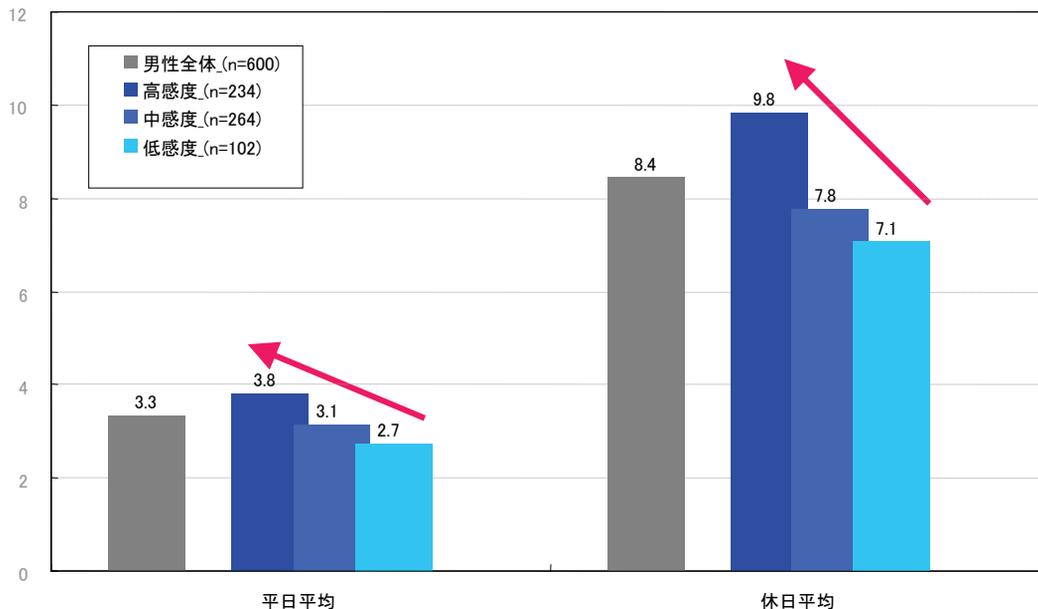
1-2. 仕事にも家族にも時間をかける

高感度男性の生活時間に注目すると、仕事の時間も長い、家族と一緒に過ごす時間も長くとる傾向がみられ、特に休日は長時間家族と過ごしている。

生活時間 : 平日と休日家族と過ごす平均時間

FA

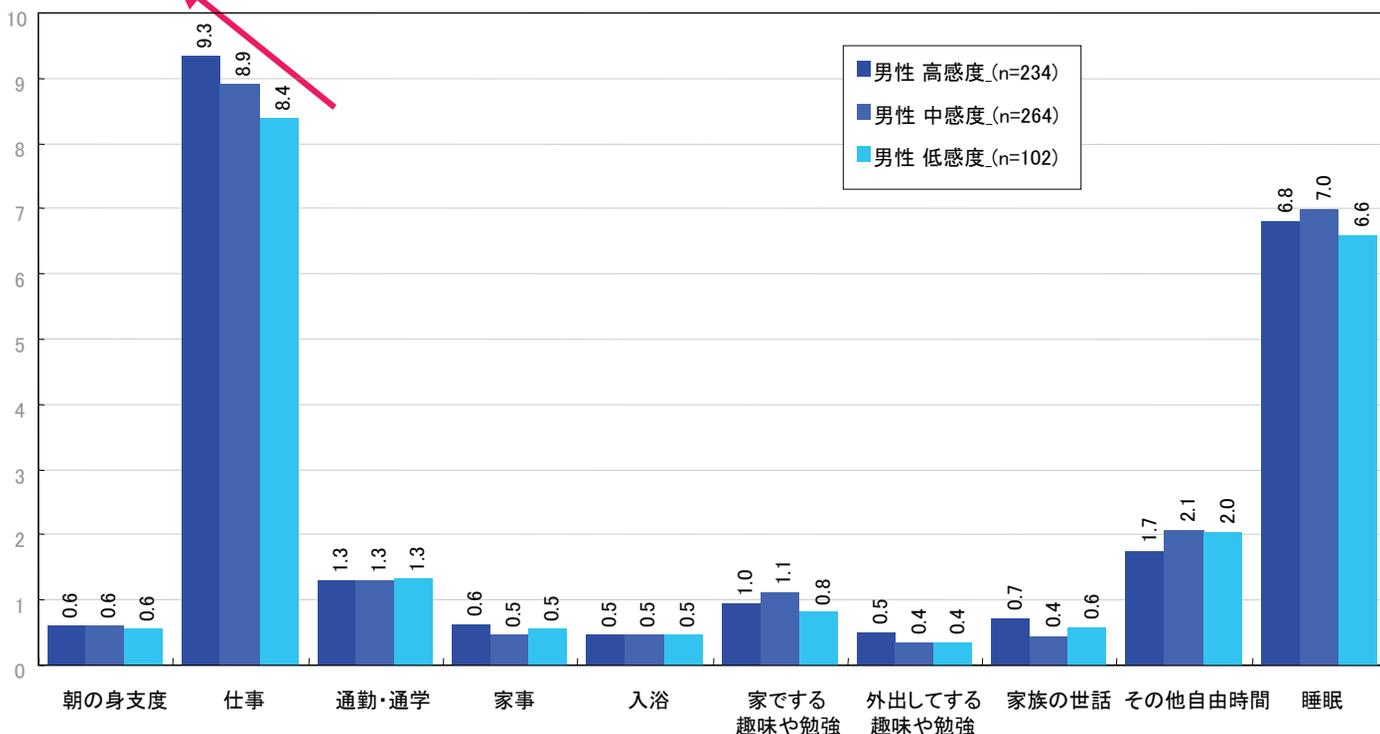
(時間)



生活時間 : 夫の平日の時間配分

SA

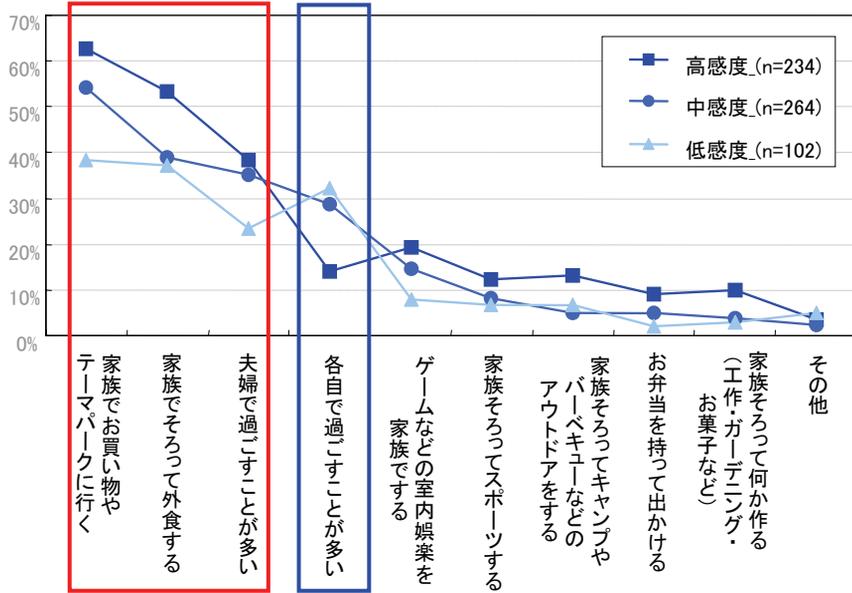
(時間)



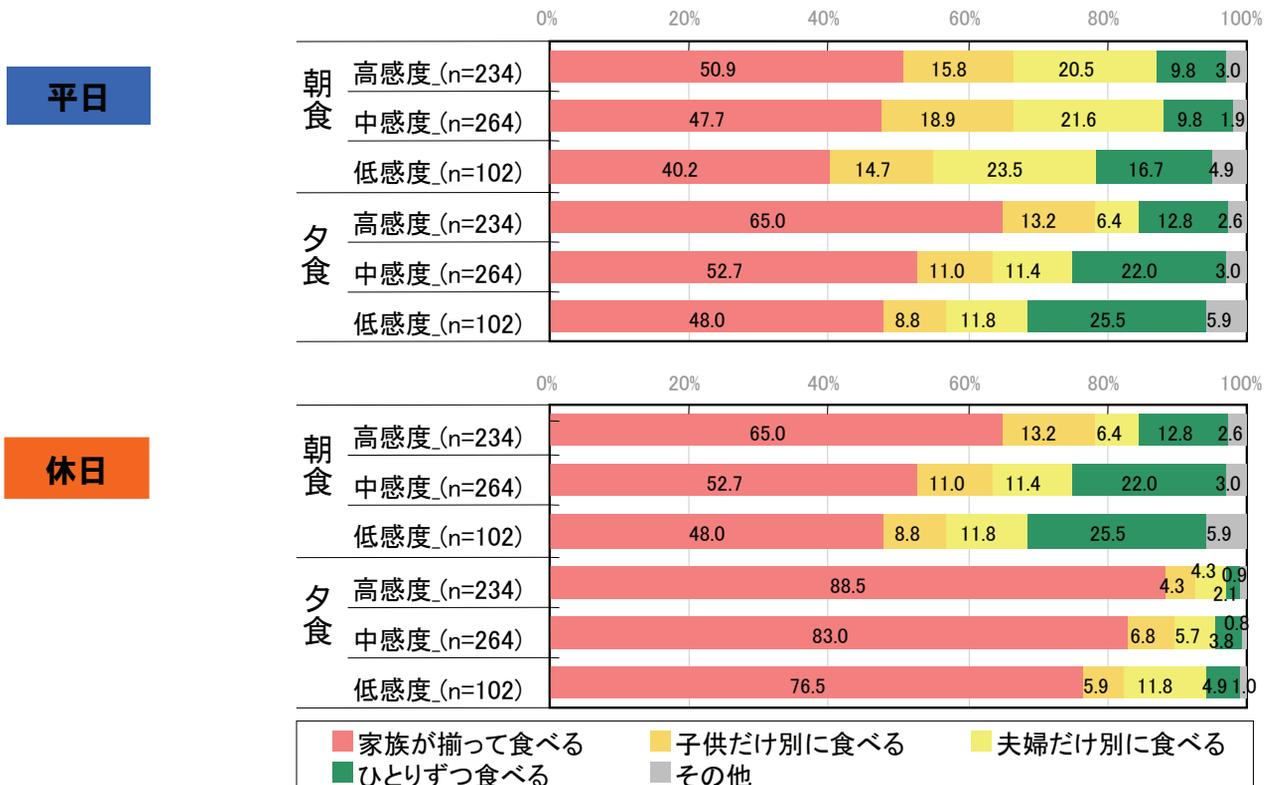
1-3. 食事イベントも家族と一緒に

高感度男性は、休日を「家族で買い物やテーマパーク」「家族で夕食」「夫婦で過ごす」など家族と過ごし、各自で過ごすことは多くない。食事も朝食・夕食とも家族そろって食べる割合が高く、特に休日の夕食は9割を占める。

生活時間 : 夫の休日の過ごし方 MA



男性の朝食・夕食のとり方

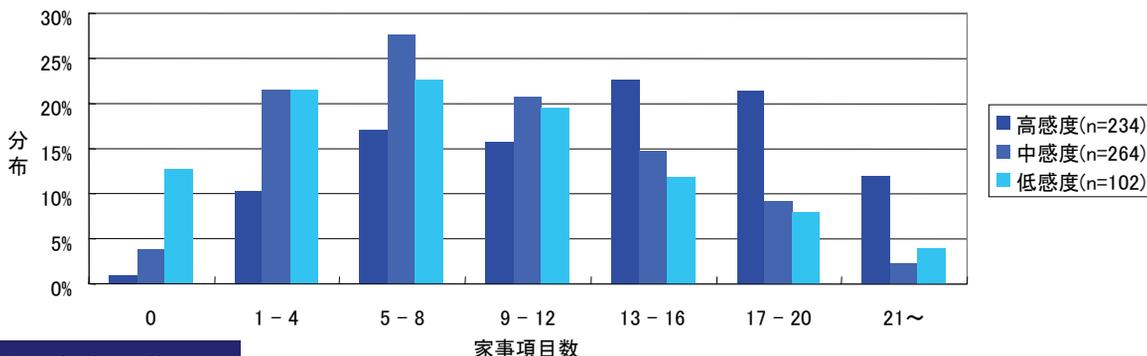


1-4. 家事に積極的

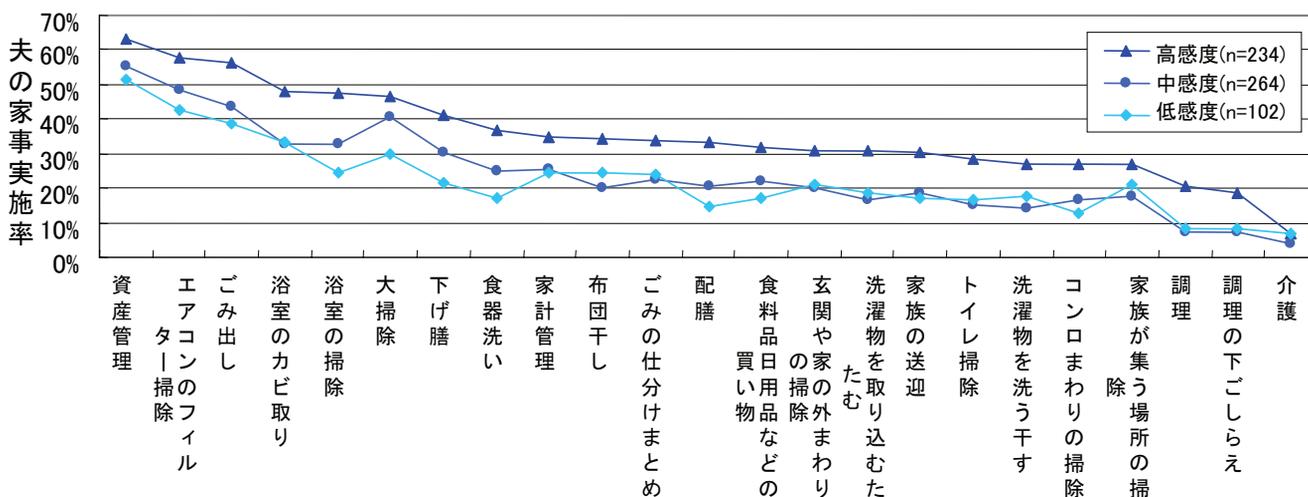
高感度男性は家事実施項目が高い傾向にある。その他の男性と比較して実施率が高い家事は、浴室の掃除や配膳、食器洗い、ごみ出し、下げ膳、コンロまわりの掃除など。「家庭内は上手くいっている」と感じている妻の家庭で、夫の実施率が高い家事はごみ出し、大掃除、下げ膳、エアコンのフィルター掃除などであり、妻側のニーズを把握することが重要と推察される。

男性感度別 家事実施項目数

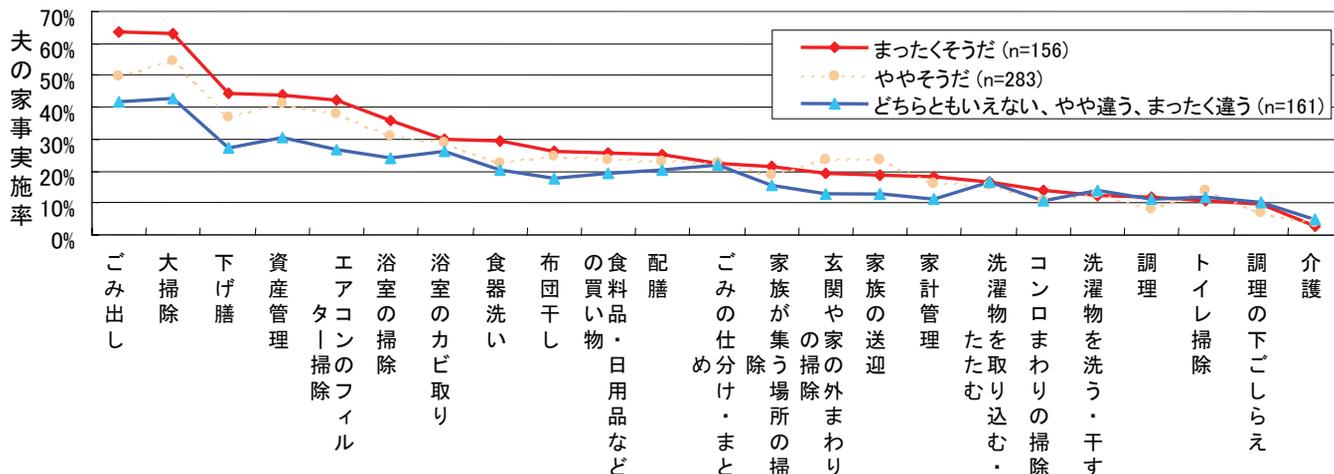
高感度平均:13項目 中間度平均: 9項目 低感度平均: 8項目



男性感度別 家事実施率



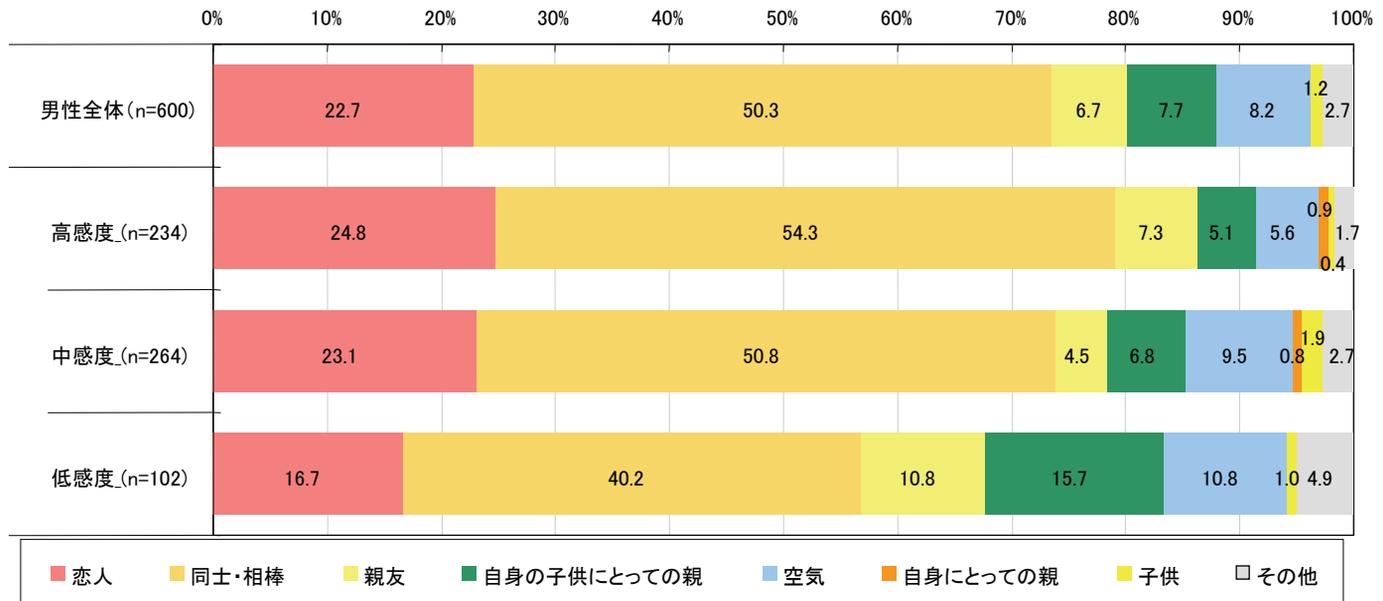
妻の幸せ度（家庭内は上手くいっている）別 夫の項目別家事実施率



1-5. 妻は最良のパートナー

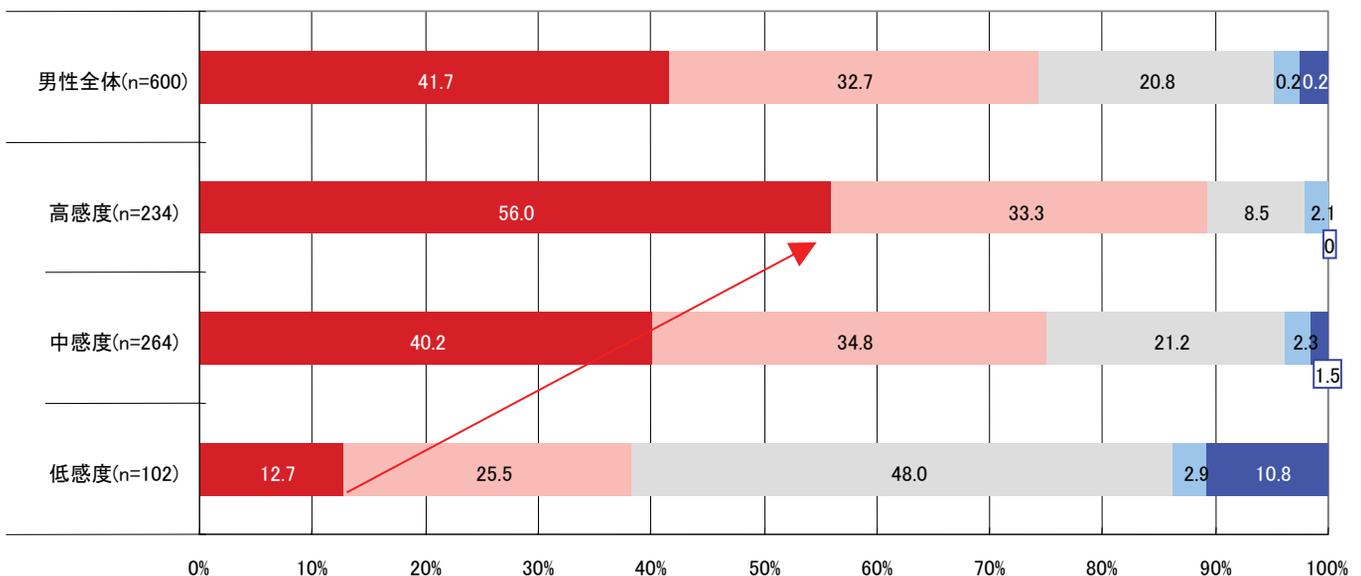
高感度男性は、妻を「恋人」や「同士・相棒」とらえており、ほとんどが「最良のパートナーだ」と考えている。

妻との関係（どんな存在か）



妻は、最良のパートナーだと思う

■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない



2. 高感度男性のいる家族の暮らし（ライフステージ別）

2-1. 新婚・子育てファミリー（20～30代）

日々の生活や家事にちょっとした変化を取り入れて楽しむ協働型コミュニケーション

何でも話して一緒に過ごす心がけを忘れない、マメで密なつながりが幸せのカギ

	【新婚】	【長子未就学】
年収	～400万円	600～700万円
妻職業	専業主婦/派遣	専業主婦/フルタイム
住居	社宅/持家集合	賃貸集合
居住域	浦安市/印西市	厚木市/川崎市

夕食では今日の出来事を共有 妻が存分に話せるように促す

- ・平日も家で夕食。会話ができる場所。
- ・「今日何があったの?」「どこ行った?」「仕事でこんなことがあった」等、1日で起こったことを話す。
- ・妻のことを知りたいので、話を聞いてあげたい。
- ・妻が話しやすいようにまめに「どう?」と話しかける。



新しいレシピを探して一緒に挑戦 ネット検索は夫が担当

- ・休日は食べたい物を検索して料理。
- ・テレビのおいしそうなお店は遠くて行けないので、出てきた料理を見て「これおいしそう」「作れそうだね」と、ネットなどでレシピを調べて作る。



凝った料理で子供に父親の姿を 「おいしい!」と言う妻の一言でやる気に

- ・料理を作る親の姿を子供に見せたい。出汁や調味料、煮込み料理など時間がかかるものを作る。
- ・「私なんかよりも全然おいしく作っちゃうんだよね。ほんとおいしい!」と、妻は大絶賛。



子供の離乳食に使うベーグルを作ってみました。ベーグル屋さんってあまり無いし高いので。

同じ「食べる」でもプロセスを変えて 自分の趣味にも家族を巻き込み豊富な体験を

- ・同じお肉を食べるのにも「今日は外で焼こうか」と、家で食べるのと外でBBQでは違う体験。子供にはそういう体験をひたすらさせたい。
- ・趣味のフットサルのBBQには、家族で参加。

揚げ物は一緒に 食器洗いはジャンケンで

- ・揚げ物は妻1人では危ないので「手伝うよ」と言って、一緒に作る。
- ・妻も疲れているので、食事が終わると「じゃ～ジャンケンで!」と皿洗いはジャンケンで決める。
- ・妻が掃除担当でも、夫がよく使うところは自分で掃除。
- ・部屋が片付いてないとき、黙って掃除して、妻に掃除が行き届いていなかったことを気づいてもらう。



夫は家具を動かして掃除しないと気がすまなくて力仕事なので、リビングは夫がキレイにしてくれます。

2-2. 小学生のいるファミリー（30~40代）

日々の生活や家事にさりげなく寄り添い、家族の和を保つ調和型コミュニケーション

時にサプライズや家族イベントで結束力を高めることも忘れない、メリハリの利いたつながりが幸せのカギ

年収	800~900万円
妻職業	専業主婦/専業主婦
住居	持家集合/持家戸建
居住域	鎌倉市/所沢市

早く帰って家族の輪に混ざりたい

- ・決められた時間の中で仕事と家庭のオンオフをしっかりとさせています。平日はまっすぐ帰宅して家族と夕食。
- ・家族の顔を見ながら食事が出来るので一人で食べるよりいいと思う。



子どもの顔を見ると
ホッとします



団樂の時間は妻と子どもの好きな話題に

- ・家族の話は聞いてあげたい。あげるという大変だが、ちゃんと聞いてあげたいし、コミュニケーションをとろうと心がけている。
- ・ドラマや好きな芸能人など、家族揃って同じ好み。みんなでTVを見たりふざけたりする。
- ・子供を寝かしつけた後、妻に付きあってビデオを見ることもある。

他愛ない話でも常に会話して心配やケンカのない話しやすい雰囲気作り

- ・他愛のない話などで家族と常に会話するようにして、気兼ねなく話ができる雰囲気を作るようにしていると夫婦喧嘩も長引かない。
- ・子供が心配するので、妻とは口喧嘩しないようにしています。
- ・日々一緒にいることが大事。ものまねやふざけたりして笑ったりするだけでもいいと思う。

思い立った時に突然食べたい料理をする腕前に自信はあるし子供も喜ぶ

- ・急に思い立って、自分が食べたいデザートを作るときがあります。夜遅くそと24Hスーパーに買出しに行き、作ってテーブルに並べておくと、朝起きた家族は驚いて、喜んで食べてくれるんです。

妻が気が付かないうちに家事をサポート、さり気なく父・夫をアピール

休日、朝寝坊の私の代わりに、気が付けば食洗機で洗い物をして食器をしまっていることもあるんです（妻）。



- ・朝は、妻が子供の弁当作りに専念するので、子供にパンやコーヒーを用意し食べさせています。
- ・家事は、何かを必ず担当というわけではなく、妻の状況を見て「やろっか？」と声を掛け、トイレやお風呂掃除をしていますよ。
- ・土曜日は、娘達の習い事の付き添いで一緒に行って一日終わる感じです。

家庭に仕事は持ち込まず、すべて家族のためにかつては車が趣味だったが家庭菜園が趣味に

- ・昔は車が趣味でしたが、今は家庭菜園。ベランダでメロンやスイカを作り始めています。

苗からこんな風に育って実がなるんだよ、ということを教えられるかなと思って。コミュニケーションのツールとしても使えるんです。



2-3. 中学生のいるファミリー（40～50代）

日々の生活や家事は、お互いを信じて任せる信頼型 コミュニケーション

互いに踏み込み過ぎない自由さも残しつつ、変化を受け入れ今後の関係を作り出すつながりが幸せのカギ

年収	800～1100万円
妻職業	パート/パート
住居	賃貸集合/持家戸建
居住域	横浜市/川崎市



家庭に仕事は持ち込まない。 家族が揃うこと自体が大事

- できるだけ家で食事を一緒にとるようにする。家庭に仕事を持ち込まない。
- 心配事なくリビングで揃ってのんきに話していると幸せ。会社を離れたら仕事の話をしなない。

たまには、こづかいでスイーツを買って帰ることもあるんです。自分はそれほど甘いものを食べないけど、ちょっとしたサプライズ

それぞれ違うことをしながらも
家族が集まるリビングダイニング



休日の昼飯らしいものを子供の分も作ってる。写真のオムライスも僕が作ったんですよ。

家族の連絡用に、手紙や学校のお便りなどをテーブルに挟んでるんです



子供がだんだん離れていくことに寂しさを感じている

- 家族一緒の夕食も「テストどうだ？」と聞いても子供が喋らないのが気になる。
- 子供をどこか連れていきたいと思うが断られ、離れていくことが寂しいと思う。
- 以前は子供も一緒にキャンプへ行っただが、ついてこなくなった。



好きな料理はやりたい時に。ホットプレートで父親気分

- 休日の昼食など、妻が働きに出ている時には思い立てば子供の分も適当に料理する。「今日はお好み焼きにしようか」と大好きなホットプレート料理を率先してやる。

家事は妻に任せて踏み込まないが、分担されたものはしっかり担当

- 妻の家事に踏み込まず、妻ができないことや担当した任務を遂行。網戸、障子はり、庭の掃除、長時間運転、車掃除と毎日のごみ出しを担当。屋内家事全般は妻が担当。
- 「妻の領域には入らず、妻が関知していないところを自分担当としてやっている」と車やエアコン掃除担当。妻が不在であれば料理も。
- 出張先ではアイロンがけなど、自分のことは自分で出来る。



休日は早起きして自分時間も確保。趣味仲間と出かけることも

- 「家族が起きてくると何もできないから」と、休日も朝6時半に起きて、趣味の自転車やネットでアンケートに答えるなど自分の時間として過ごす。
- 年1～2回家族を置いて、仲間とキャンプへ行く。
- 映画館に月3-4回行く。洋楽コンサートには友達と行く。趣味が違うので妻は妻で友人と行っている。

2-4. 夫婦ふたり（40～60代）

日々の生活や家事は、お互いがやりたいことをのびのびさせ、つかず離れず協力しあう
連携型コミュニケーション

会話からの観察を通して気遣うことを忘れない、気付けば一緒に過ごす同士のよう、お互いのツボをおさえつつながりが幸せのカギ

	【40～50代】	【60代】
年収	700～1000万円	500～600万円
妻職業	自営/フルタイム	専業主婦
住居	賃貸集合	持家集合
居住域	東久留米市/新宿区	川崎市



お互いに自由に何でも言い合える 何でも包み隠さず話せる

- ・自然と包み隠さず話す関係になった。
- ・互いに自由に物を言える関係でないと夫婦は長続きしない。相手に迷惑や嫌なことはしない。

毎晩必ず一緒に夕食。晩酌しながら今日の出来事を話す。くつろげる食卓演出も大切に。

- ・食事をしながら「今日上司が・・・」「こんなことがあった」など今日の出来事を妻に話す。
- ・ビールや食事をとりつつ妻と夜のニュースを見ながら喋る時間に幸せを感じている。

- ・「気付くと長い時間喋っているんだよね」夕食時、飲みながら近所や仕事、これからの旅行の話などの話をしながらゆっくりと一緒の時間を過ごす。



なんとなく増えた
晩酌用器

その日の気分
やお酒に合わせて選びます。



食べたいと思ったものを
「今日の料理」からダウンロードして、盛り付けも参考にして自分で作ります。

最初は美味しくなくても感謝して、「こうするともっと美味しくなるんじゃない」とアドバイスしました。



来客時や料理の見栄えが気になる時は白熱灯も点けます。



白熱灯と電球型蛍光灯の
混合照明

家事は時間がある方がやればよい 妻に頼られれば調理もする

- ・時間がある方が家事をすればよい。早く帰宅した時には夕食を作る。妻から得意料理をリクエストされることも。
- ・「あれ食べたいなと思って説明するより、自分で作る方が早いな」と思い、自分で料理する。男も台所に入ることは必要。
- ・妻が夜働いていた頃は朝が起きられず、自分が子供たちの朝食を用意するようになり、それから朝食を担当するようになった。
- ・妻がやらない魚料理は自分の担当。

休日は夫婦一緒に買い出しへ お互いの買い物にも付いていく

- ・買い物は夫婦一緒に。「服などは妻に選んでもらっている」
- ・土曜日、午前中に妻とスーパーへ行き食材の買い出しをする。午後、近所の公園へ散歩。夜は外食。

好きなことをして過ごす自分に対して、 理解ある妻に感謝している

- ・「仕事で悶々としても、妻はそっとして集中できるようにしてくれる」同業で自分の仕事を理解している妻。やりたいことを集中して邁進させてもらえる環境と妻の存在は大きい。

70歳までは、一緒に旅行や散歩して、 積極的に「夫婦」する

- ・自分から計画をして年2回の海外旅行に夫婦で行く。（行き先は妻の希望を反映）。
- ・今はモーレツ時代に忘れてきた「夫婦」を今は積極的に構築しようと思っている。

<参考>食・コミュニケーション・家事行動

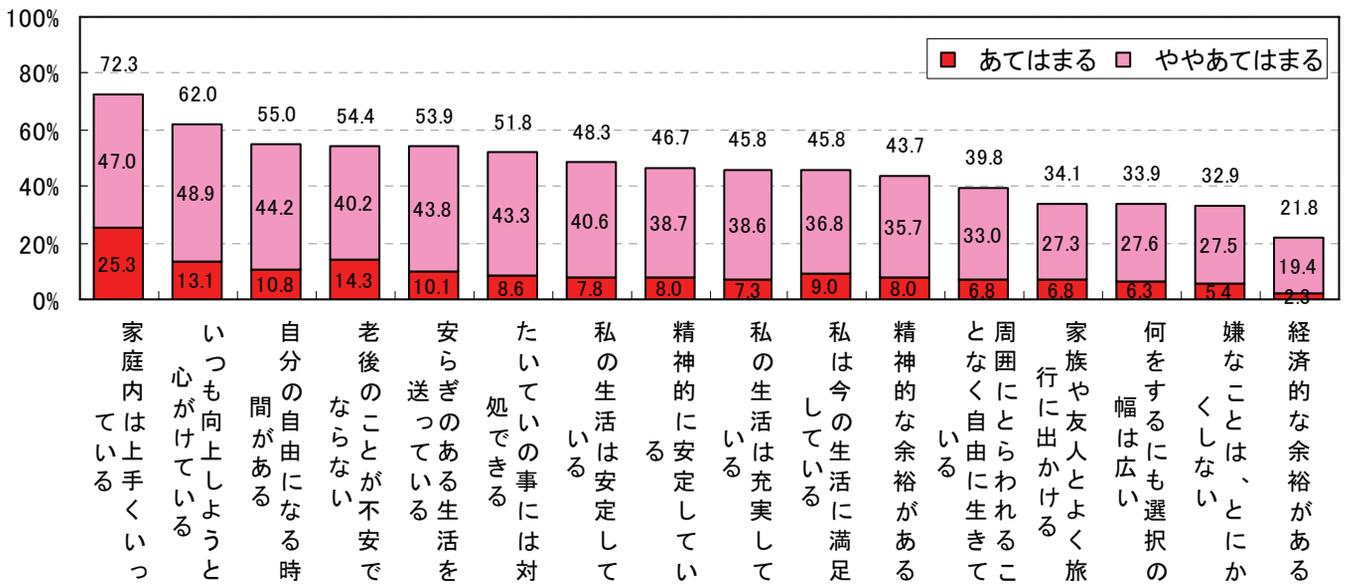
1. 普段の生活と料理や食事に関する意識

約7割が「家庭内は上手くいってる」と答えると同時に、「老後の事が不安でならない」も半数以上。「自宅で食事したい」「自宅で調理したものを食べたい」は約7割と、巣ごもり傾向が明らかに。

普段の生活に関する意識

あてはまる・ややあてはまる上位2項目

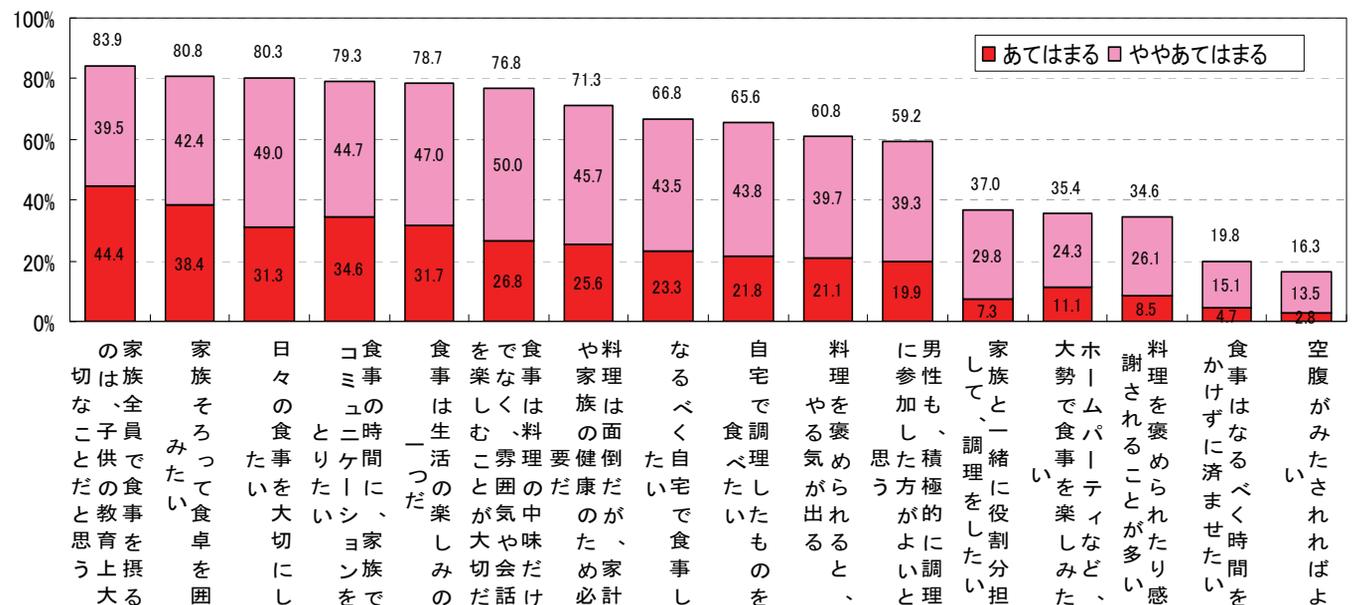
男性 n=600・女性 n=600



日常の料理や食事に関する意識

あてはまる・ややあてはまる上位2項目

男性 n=600・女性 n=600

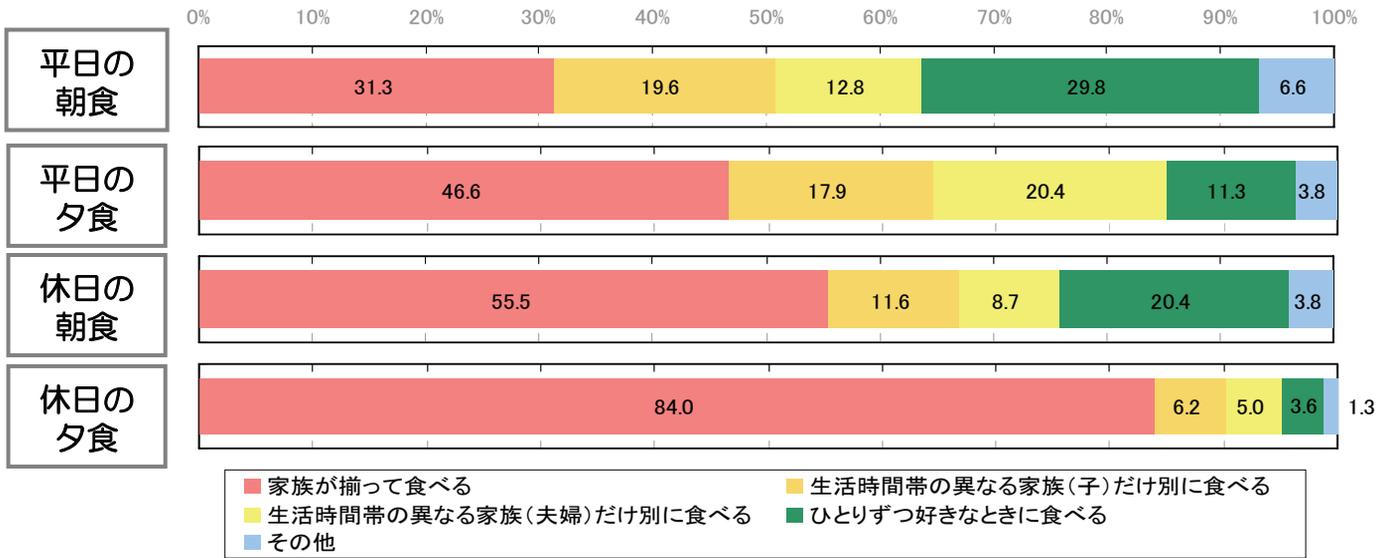


2. 家族とのコミュニケーション

「家族そろって食事をする」「家族で会話する」はともに、平日の朝食が一番少なく、休日の夕食が一番多い。
 会話する話題は「社会的な出来事」「TVのこと」「会社の出来事」「子供の出来事」が多い。

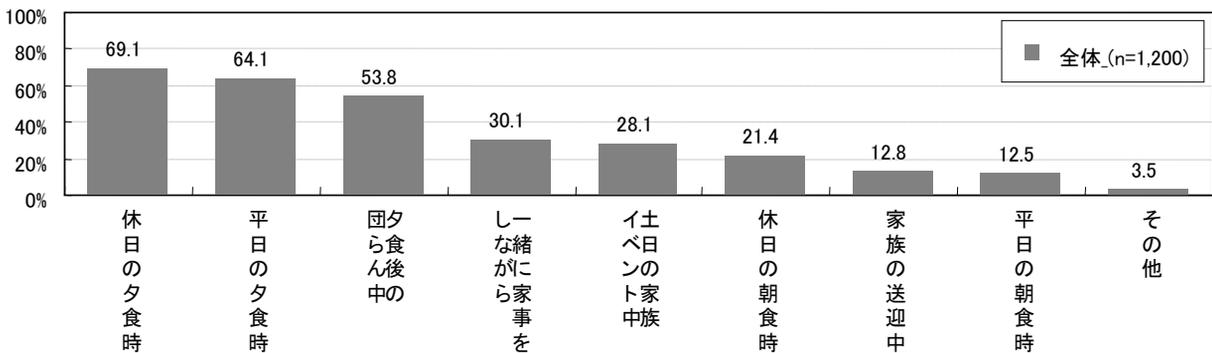
普段の食事のとり方

全体 n=1200



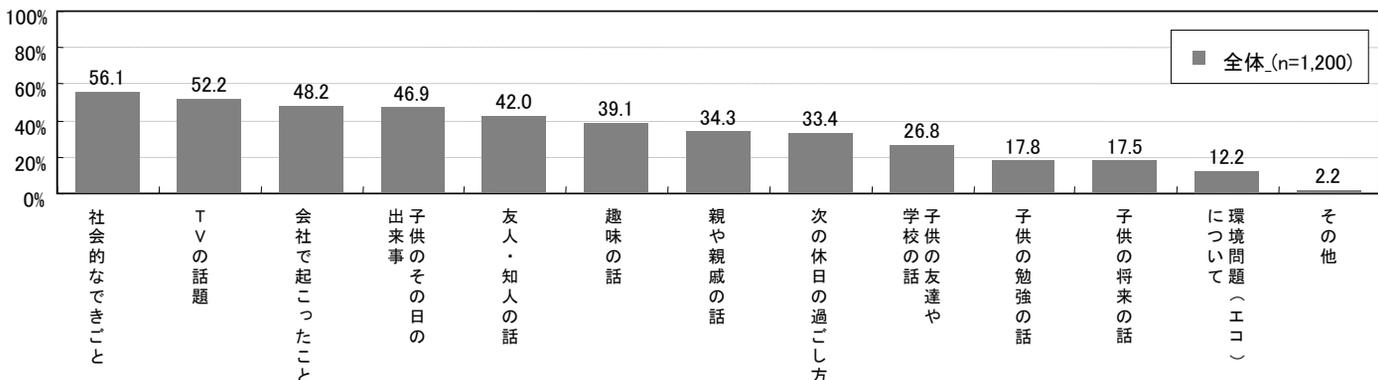
家族でする会話の場面

MA



家族でする会話の内容

MA

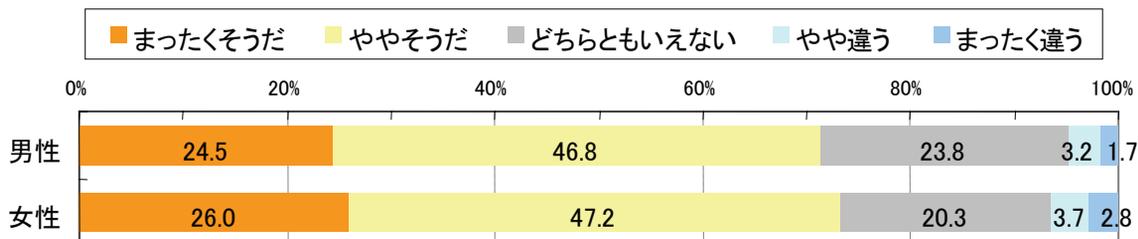


3. 家庭生活の基本はコミュニケーション

普段の生活充足度を表している「家庭内は上手くいっていると感じている」に着目。家庭内は上手くいっていると感じている家庭ほど、家族と過ごす時間をとるよう心がけ、家族揃って食卓を囲みたいと考えており、「食」が家族のコミュニケーションに重要な役割を果たしていることがわかる。

家庭内は上手くいっている

男性 n=600・女性 n=600



どんなに忙しくても、家族と過ごす時間をとるよう心がけている

男性 n=600・女性 n=600

あてはまる ややあてはまる どちらともいえない あまりあてはまらない あてはまらない



家族揃って食卓を囲みたい

男性 n=600・女性 n=600

あてはまる ややあてはまる どちらともいえない あまりあてはまらない あてはまらない



4. 家事分担と環境意識

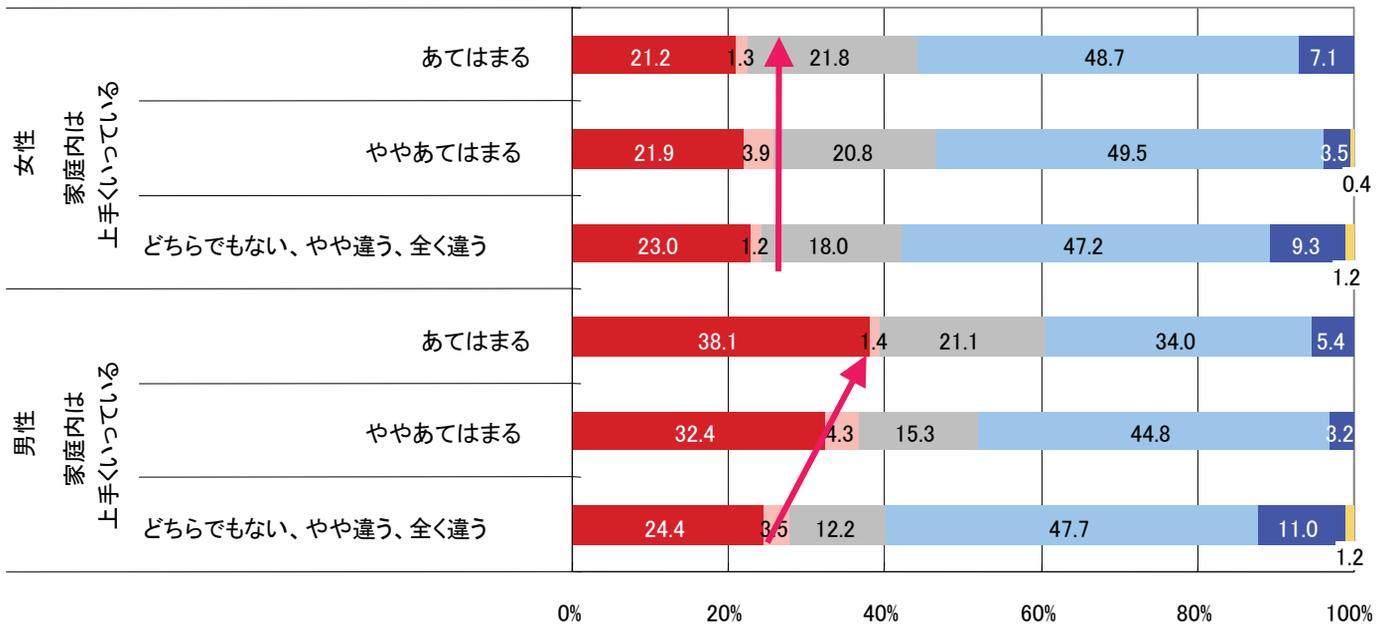
男性の方が女性に比べ、家族で分担したいと考える傾向がある。特に、家庭内は上手いと感じている男性ほど、共同作業したい、分担したいと考える割合が高い。

男女とも家庭内が上手いと感じている家庭ほど、環境のための取り組みにも前向き。

あなたのご家庭では、家事の分担をどのように考えていますか

男性 n=600・女性 n=600

- できるだけ家族で共同作業したい
- 曜日や時間帯で当番制にしたい
- 家事の内容で分担したい
- 必要なときに分担すればよい
- 分担はしなくてよい
- その他



環境のために少しずつでも自分にできることから取り組みたい

男性 n=600・女性 n=600

- あてはまる
- ややあてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- あてはまらない



5. 男女の家事行動と意識

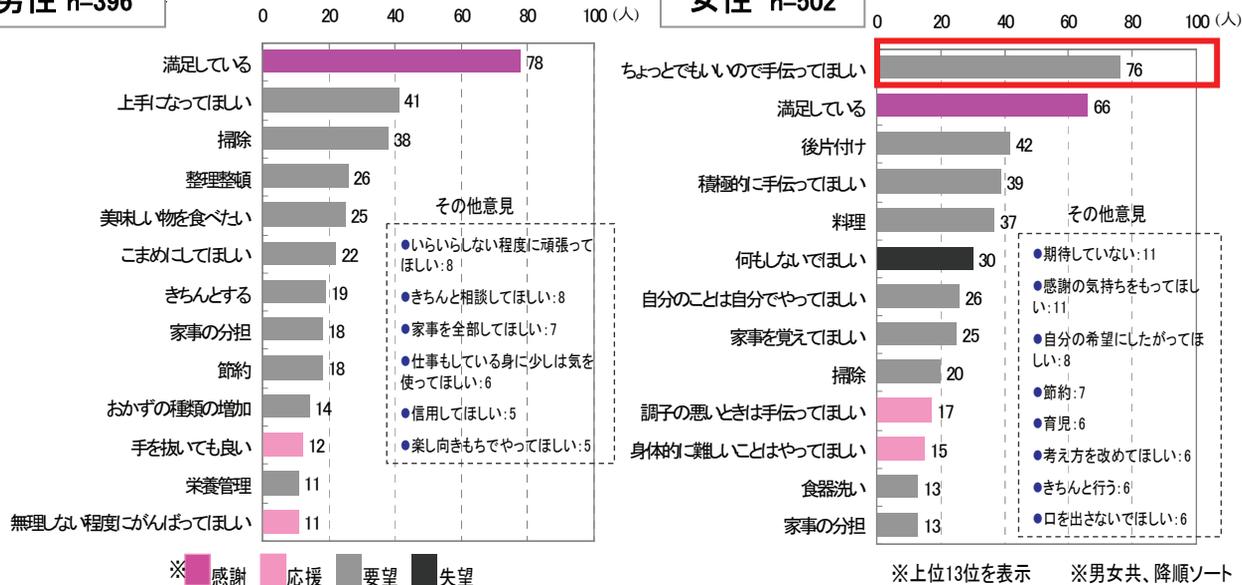
パートナーの家事に望むことについて、男性は「満足している」が最も多いが、女性は「ちょっとでもいいので手伝って欲しい」が「満足」を上回り、男性の家事参加を希望しているなど、男女差は明確である。実際のところ、ほとんどの家事は妻が主担当で、夫の実施率が半数を超えているのはごみ出しだけ。

パートナーに家事全般について望むこと

FA

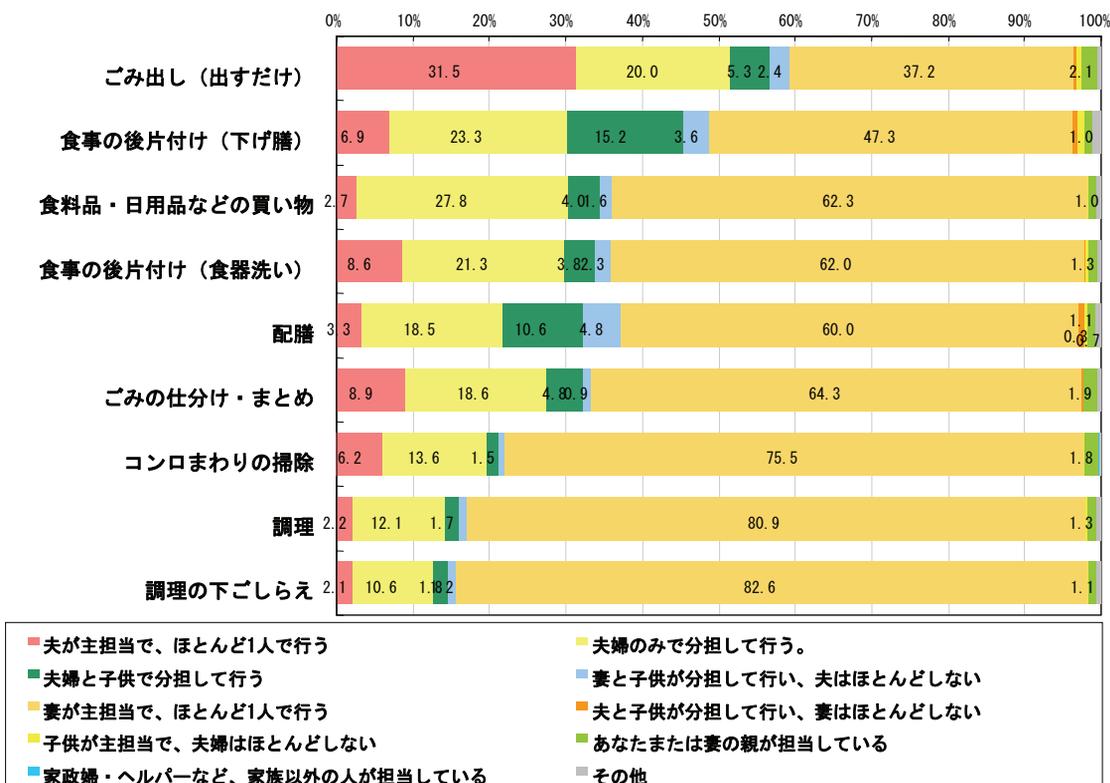
男性 n=396

女性 n=502



調理分担の実際

全体 n=1200



調査内容(定量・定性)

定量調査

- ◆ **調査目的** 生活者の家族との関わり方、食や環境に関する実態とその意識を明らかにする。
- ◆ **対象者条件** ・東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・茨城県・栃木県・群馬県・山梨県・静岡県にお住まいの20歳～69歳の既婚男女
・性年代により割付。20～50代男女各125s、60代男女各100s 計1,200s回収。
- ◆ **調査手法** インターネットWeb定量調査
- ◆ **委託先** ヤフーバリューインサイト株式会社
- ◆ **実査期間** 2009年1月15日(木)～19日(月)
- ◆ **調査項目**
 - 属性:年齢、同居の家族人数、職業・勤務形態、住居形態 など
 - 生活全般について(生活時間配分、生活価値観 など)
 - 家族について(配偶者の存在、家族で過ごす時間と過ごし方など)
 - 調理の考え方や実態(食事のとり方、食事まわりの家事分担の仕方など)
 - 料理以外の家事全般について(家事の分担の仕方、配偶者へ望むことなど)
 - その他(キッチンまわりの設備、食育など)

定性調査

- ◆ **調査目的** 「食」まわりの生活で意識の高い男性を対象として、家族への接し方や1日の過ごし方など生活の実態とその背景を調査し、意識が高くなった要因などを明らかにする。
- ◆ **対象者条件** ・東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいの20歳～69歳の既婚男女 11組
・感度の高い男性※とその同居している配偶者 年齢差5歳以内
※食や家族、環境などに関する項目について高得点の男性
- ◆ **調査方法** 訪問調査…対象者の家を訪問し、対象者の男性とその奥様に対してパーソナルインタビューを実施する。
- ◆ **委託先** 株式会社ドゥ・ハウス
- ◆ **実査期間** 2009年6月6日(土)～28日(日)
- ◆ **調査項目**
 - 普段の生活パターンについて(平日と休日・家族との過ごし方など)
 - 仕事と仕事以外(趣味など)に対する意識・行動実態について
 - 家族の存在や位置づけ、イメージの変遷について(結婚前後、現在、今後など)
 - 家族以外(ご近所など)とのコミュニケーションについて
 - 現在の暮らしへの満足度(幸せ感)とその理由・背景、今後に求めることについて
 - 家事行動に関する実態について(調理、食器洗い、ごみ出し、風呂掃除など)
 - その他(家電製品の決定権と購買・使用状況、節約・エコ意識など)

くらしスタイル調査報告書
～「幸せ家族」の鍵を握る高感度男性～

2009年11月 発行

《メンバー》

花王株式会社 生活者研究センター：安藤 洋司・石渡 明美・駒場 ゆかり・末宗 洋子
東京電力株式会社 暮らしのラボ：奥田 高子・佐藤 なるみ・辻 青子・長島 健太郎
古江 教靖
技術開発研究所：中山 和美・木方 真理子
パナソニック株式会社 暮らし研究所：籾 ゆき子・須田 順一・大西 康友・山野 妙子